

対策を講じて「飛来・落下事故」を防止しましょう！ ～事故対策の基本を怠ると致命的な事故に繋がります～



「飛来・落下事故」は、万全な安全管理のもとで作業をしても発生するという現状があります。事故を発生させないために、安全対策と予防により自分も他人も守ることのできる環境を整えましょう。

事象事例 対策を講じず、事故発生

【事故概要】ボックスカルバートの型枠支保工を解体するにあたり、支保工をジャッキダウンしたことにより、支保工の各部材にゆるみが生じ何らかの原因によって3段目の固定用パイプサポート(長さ2m、9.3kg)が落下し、底版上で上段から降ろされてきた資材の集積を行っていた作業員に激突した。

【主な要因】

- ①資材の落下に対する対策が不十分だった。
- ②作業手順に不備があった。
- ③作業状況の確認が不十分だった。

【再発防止対策】

- ①当該現場の再開にあたっては、張出足場組立作業及び立入禁止措置等の実施を行い、パイプサポートを含む落下の恐れがある部材を優先して撤去する。
- ②今後、同様現場においては、パイプサポートの撤去を先行して行うよう計画する。

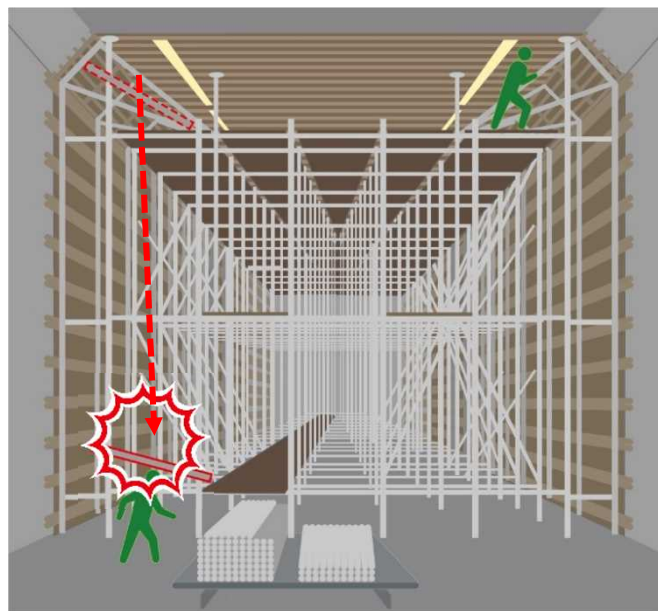
【参考】

(安衛法第21条第2項)

事業者は、労働者が墜落するおそれのある場所、土砂等が崩壊するおそれのある場所等に係る危険を防止するため必要な措置を講じなければならない。

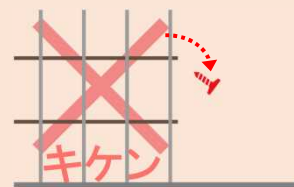
(安衛則第537条)

事業者は、作業のため物体が落下することにより、労働者に危険を及ぼすおそれのあるときは、防網の設備を設け、立入区域を設定する等当該危険を防止するための措置を講じなければならない。



事故防止ポイント

- 高所作業では作業員自身の危険だけでなく、工具などを落として下にいる人や物を傷つける危険があります。原則、上下作業を禁止し、立入禁止区域を設定し、作業手順書を整備して、関係者に周知してから作業を行きましょう。
- また、工具や資材を落下させないように、落下防止ネットや落下防止ロープなどを活用し、万が一落とすようなことがあっても地面まで落下させないようにしましょう。
- 塗料や薬剤の落下・飛散も危険です。飛散防止ネットや養生シートなどで養生を行きましょう。
- 飛散防止ネット・養生シートなどを撤去する際には、付着した塗料・薬剤が飛散しないように注意しましょう。
- 強風による資材などの飛散も危険です。シート類は縛り、風の影響を受けないようにしましょう。安全コーンや看板などはしっかりと固定しましょう。



工具・資材の落下を防止するため、落下防止措置を講じる

複数の対策を組み合わせることで落下・飛散を防止しましょう。

❄️ 冬季特有の事故に注意



これから本格的な厳しい冬を迎えます。冬季は、積雪・凍結・寒冷などによる転倒、墜落、交通事故など、冬季特有の事故が発生する傾向があります。また普段は実施しない冬季特有の作業もあります。冬季特有の現場環境や身体状況、作業方法を十分に考慮し、対策を講じて事故防止に努めましょう。

事件事例1 冬季特有の作業の最中、事故発生

【事故概要】 雪害基地において凍結防止剤を散布車へ積み込む作業を行っていたところ、クレーンで散布車の荷台に運ばれてきた凍結防止剤を荷台の上で開封する作業を行っていた作業員が、荷台の昇降設備を使って荷台に上がった際、荷が揺れたため、揺れを止めようとして荷に触れた時によろけ、荷台(高さ約2.6m)から墜落した。

【主な要因】 墜落制止用器具を使用していなかった。

【再発防止対策】 ①全作業員に対して、事件事例の周知及び凍結防止剤積み込み作業に関する注意喚起を実施する。
②作業手順書を修正し、墜落制止用器具の使用及び積荷が停止するまで散布車の荷台に登らないことを徹底する。



事件事例2 現場状況を把握しないまま作業を行い、事故発生

【事故概要】 トンネル工事の長尺鋼管先受け作業において、鋼管(長さ3.1m, 28.3kg)を移動させようとして両手で鋼管を持っていた作業員が、鋼管の重さでバランスを崩し、凍った鋼管が手から滑ったため、左手を鋼管先端に持ち替えようとした際、仮置きしていた鋼管との間で指を挟み、左手手中指第一関節を切断した。

【主な要因】 天候が悪く、気温が低かったため、鋼管が凍結して滑りやすくなっていたが、被災者はそれに気付かず、また、単純作業による油断もあって、漫然と作業を行っていた。

【再発防止対策】 ①鋼管を人力運搬する場合は、複数人で行い、双方が声を掛け合ってお互いの状況を確認しながら作業を行う。
②天候条件を事前に把握した上で、鋼管表面の状況確認を複数人で行い、凍結が確認できた場合は作業前に当該部分を除去する。(ウエス等での表面拭き、解氷スプレーの使用等)
③鋼管を取扱う作業の際は、裂傷防止のために、耐切創手(防刃手袋)を着用する。

凍結した鋼管が滑り、持ち替えようとして



仮置き鉄管との間に指を挟んだ



事故防止ポイント



- 気象情報を事前に入手し、作業計画の見直し、必要な用具の確保、設備の点検を行いましょ。

【気象庁HP】大雪・暴風雪に関する最新の防災気象情報
https://www.jma.go.jp/jma/bosaiinfo/snow_portal.html

- 積雪時には通路や作業面の除雪を行いましょ。ただし悪天候の最中には除雪作業は行わないようにしましょう。
- 凍結の恐れがある時には滑りにくい靴を着用し、通路や作業床に滑り止め措置を講じましょ。
- やむを得ず大雪・暴風雪が予想される地域を走行する場合には、防寒着、スコップ、牽引ロープ、非常用食料などを予め準備し、道路状況に応じた無理のない運転に努めましょ。
- 冬用タイヤを装着していてもなお、立ち往生するおそれがあるのでチェーンを携帯しましょ。

早期注意情報(警報級の可能性)	
気象庁では警報級の現象が予想される時、その可能性を「早期注意情報(警報級の可能性)」として「高」「中」の2段階の確度をつけて発表しています。	
当日	翌日まで
翌日	・天気予報と併せて発表 ・時間帯を区切って表示
2日先	2日先～5日先まで ・週間天気予報とあわせて発表 ・日単位で表示
3日先	
4日先	
5日先	
予測が困難な場合には、早期に注意情報が発表されないこともあります。	

気象情報を事前に入手して、早め早めに対策を講じましょ。